

越中一宮

高瀬神社社報

第7号

平成17年9月13日

越中高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

写真：医王山から望む砺波平野

撮影：南部写真館 南部 榮氏

社頭講話

「文化ということ」

宮司 藤井秀弘

文章とか言葉は人々に感情を催させる不思議な力を持っています。私は時々「これが言葉が宿す言霊と云うものか。」と感動することがあります。

日常生活の中で使う言葉や文字の中で余り深く考えることもなく割合に多く使う言葉や文字の一つに「文化」と云うものがあります。そのくせ文化と云う言葉の意味を問われると妙に身構えてしまい、息がつまりそうな窮屈な思いをするのではないかと思います。しかし、よく考えてみますと文化とは決して窮屈な言葉や文字ではないはずで、国語辞典に、「世の中が開けて生活が便利になること。…文明開花と同じ」また、「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果」「衣食住」「技術、道徳、宗教、政治…文明と同意語」「人間生活を高めてゆく上の新しい価値を生み出してゆくもの」を「文化」と云うのだと記述してあるように、辞書を読むだけで理解できると思

います。「文化」とは、私たちが間が生きてゆくために必要なものだと言えます。

私たちの生活の周辺に常に存在する「文化」、この文化を大きく三つに区分して考えますと、物質文化、精神文化、制度的文化に分けることができます。はじめに「物質文化」について考えてみましょう。この文化は私たちの生活を便利にしてくれますが、必要以上に発展しますと生活が豊かすぎて却って人々を不幸にする文化だと思えます。生活が便利になり豊かな生活が長く続きますと人々はマンネリ化した物質文化の中でこれが当然の生活であると思うようになり、生活に対する喜び、感謝の心は失なわれてしまいます。即ち、心の文化が人々の生活の中から姿を消して物質文化こそすばらしい文化であるように思うようになり、社会は乱れて人間らしい生活が失なわれてゆきます。おそらく信仰も信頼も失なわれた社会となってしまう

でしょう。

たとえば、神宮大麻の頒布数減少の問題にしてもそれは人々の心の文化、即ち精神文化の欠損から生ずることと思います。また、人間は現在のように日進月歩の社会、更に複雑化した社会では一人で生活することは不可能に近く、誰の力も借りずすべて自給自足することはできるはずありません。かならず、人が生きてゆくために他人の力を借りなければならぬ社会が今日の社会だと思っております。

そこには約束、信頼が重要な役割を有し、助け合い、協力する事が生れ、心の文化が発展し、住みよい社会が生まれて来ると思っております。そのような文化を心の文化、即ち精神文化と云うのです。しかし、約束、信頼を条例化した文化も今日の社会では必要になります。即ち、制度的文化です。憲法をはじめとして市町村における条例にいたるすべての法律こそが制度的文化と云う文化なのです。

先般、本社本庁へ出張した帰り、東京駅発午後五時の上越新幹線に乗車するためにホームに立っていますと構内放送で「午後五時発のMaXあさひ三二九号が車輛故障のため別の車輛による運行となりますのでご乗車の方はご注意ください

さい。」との案内の放送が入り、たくさんの駅員がホームに立ち、私たち乗客を入線した列車へと案内して下さったのですが、私の前に居た紳士が急に怒り出して「JRは何をやっているんだ、借金を国民に払わせるは、サービスは悪いは、おれの座席はどこにあるんだ」とわめき立てて駅員が帽子をぬいであやまっているのを見て世間で失われているものは？と考えざるをえませんでした。社頭で氏子崇敬者の方に人としての道を説き、人々の心の中に何を教え導くべきなのかあらためて、考えて見なければと思った一刻でした。私たち宗教家、神道人が氏子崇敬者の先頭に立ち精神文化や、制度的文化の重要性を説くことも神の道であり、即ち人の道に沿うことになるのではないかと思います。戦後六十年の歳月が流れ、平和な社会、便利な社会に生活した人々の心に失われたこれらの文化を説くことによつて三つの文化が調和した社会が出現し「豊かな」と云うことのできる社会が生れると確信しています。新聞・テレビなどで、報道されるニュースの中の三面記事が一日も早く明るいものであふれるよう祈りたいものです。

祭事暦

祈年穀祭齋行

六月十日午前十時より特殊神事であります「祈年穀祭」が齋行されました。

御神前で御神火がともされ、宮司祝詞奏上につき砺波地区農業協同組合協議会からの幣帛が供えられ、奉幣使（佐野俊之会長）による祭文が奏上されました。

宮司と奉幣使が鳥居前に誘蛾灯として備えられたかがり火に点火し、参列者一同拝礼しました。

また、「根尾宗四郎氏・上田又一氏遺徳顕彰事業」により篤農家の方に表彰状が贈られました。

（農事功労表彰）

中村健二（庄川町）

尚、神輿渡御は十三日に行われ、砺波地区の各農業協同組合を巡幸し御神火を頒ち、本年も病虫害の災によって農作物に大きな被害無きよう豊作を祈願しました。



（神輿渡御行程）

なんと農業協同組合（南砺市金戸）

福光農業協同組合（南砺市荒木）

いなば農業協同組合（小矢部市石動）

となみ野農業協同組合（砺波市宮沢町）

高瀬ゆかりの地を訪ねて

（五）

「礪波神社」

鎮座地

北海道空知郡栗沢町砺波

御祭神

大国主命（大己貴命）

天活玉命

五十猛命

例祭日

（春季）四月十日

（秋季）九月十日

宮司 枝廣榮美

総代長 宮崎 正

（由緒）

明治二〇年頃より富山県人の北海道へ開拓移住が始まり、明治三十年を過ぎると移住者数が全国第一位となりました。空知郡栗沢町砺波は富山県砺波地方からの移住者により開拓されました。「礪波神社」は明治二七年高瀬神社より勧請



され、開拓移住者一〇八戸団体移住者により社殿が建てられました。明治四〇年、社号申請を行い無格社となり、昭和二年、現在の大鳥居が建立され、昭和七年には井波町（現南砺市）出身の東城清八氏をはじめとする宮大工により、本殿・幣殿・拝殿の造営がなされました。昭和一一年には村社に昇格し、現在に至っています。昭和五九年には、藤井秀直前宮司が参向し「豊作祈願祭」を御奉仕しました。

「植樹祭」

昨年(2005年)の十月二十日、台風二十三号の襲来により境内の七十余本の倒木により、社頭の荘厳さを消失してしまいました。伊勢の神宮の温かいお心遣いによりまして



「植樹祭」
 榎苗木を拝
 戴しました。



四月二十二日、権宮司が神宮に赴き、奉告参拝につづき、神宮司廳で榎苗木を受領しました。

四月二十四日午前八時より「植樹祭」が斎行されました。
 祭典終了後、朝倉一男氏指導の下、氏子百三〇名が未来に夢を託して、真心こめて一本一本植樹しました。

「人形感謝祭」と「人形展」

「第六回人形感謝祭」が去る七月十七日斎行されました。特設の納め所には約二五〇〇体の「日本人形」や「ぬいぐるみ」が持ち込まれ、参列者一同感謝の誠心を捧げました。

「人形感謝祭」にあわせ七月十六日より十八日まで「第五回人形展」(一期一会)が開催されました。

各作家の手による木彫や和紙・古布などをもちいた創作人形約一〇〇点が展示され、昨年につづき、いけばな「秀抱会」により会場が装飾され、人形に華をそえました。



▽出品作家

- 牛島 辰馬 (庄川町)
- 八木 裕子 (富山市)
- 池田由美子 (砺波市)
- 荒井 恒雄 (井波町)
- 松本 昌子 (魚津市)
- 大和 温 (富山市)
- 福島まゆみ (金沢市)
- 安達 陽子 (砺波市)
- つるもりひろこ (野々市町)
- 米田 守 (庄川町)
- 大野 秋二 (南砺市)
- 谷口 淳一 (滑川市)
- 飛驒山静恵 (富山市)

▽装飾

- 「秀抱会」
- 会長 梅崎秀鈴 (庄川町)
- ※順不同、敬称略

社のいびわら

「庭燎の集い」

富山県神社庁による「第二十八回庭燎の集い」が七月二十八日境内にて開催され、地区の児童三十九名が集まりました。

参集殿において、神話「海彦・

山彦」の紙芝居や轆轤を使っての「火きり体験」など普段体験できない内容でした。又、夕刻より拝殿において「奉告祭」が執り行われ、御神前で火きり神事で採火された「御神火」に、自分たちの手で作り願いを



記入した「あんどん」に火をともしました。また、雅楽鑑賞やゲームもあり、子供たちは楽しい一日を過ごしました。



「境内参道整備」

(株)川上建設代表・川

上光泉氏の御篤志により、風雪のため傷んだ境内参道が整備されました。手作業での修復が無理な箇所を、重機により修復、真新しい玉砂利が参道に敷き詰められました。

四月七日に作業が終了、ご参拝の皆様にご気持ちよく参道を歩いて頂くことができるようになりました。



「特級昇進祝賀会」

去る七月五日、「藤井秀弘宮司の神職身分特級昇進を祝う会」が富山市の富山全日空ホテルにおいて、県内外より約三〇〇名の出席をいただき開催されました。

ご来賓の久邇邦昭神社本庁総務課長(代理矢田部正巳総長)、北白川道久神宮大宮司(代理高城治延神宮少宮司)、綿貫民輔神社本庁長老(代理、溝口進南砺市長(代理清都邦夫助役)よりご祝辞を賜りました。

「命の続く限り神明奉仕に努め斯道発展に努力を致します」と謝辞を述べ盛会のうちに終了しました。



献穀田だより 『御田植祭』齋行



献穀田のお田植え祭が、去る五月二十二日、南砺市高瀬の岩倉和弘氏（本年奉耕者）の水田で齋行されました。

当日は、井波地域中核農業士協議会（金田久志会長）をはじめ関係者約六十名が参集し、五名の早乙女によりコシヒカリの苗が丁寧に植えられました。

九月中旬の「抜穂祭」で刈り取られた稲は、御神前にお供えられるほか、伊勢の神宮へ奉獻されます。

本年早乙女奉仕者（敬称略）

竹田はるか 柴田 早織

藤井 有希 竹田 絵美

武田真理子

神宮の御事 おんこと

式年遷宮と御杣始祭

去る六月三日、長野県木曾郡上松町において「御杣始祭」が齋行され、富山県神社庁長を務める藤井宮司が参列いたしました。

伊勢の神宮では、御社殿をはじめ調度品を新しくし、神様をお遷しする二十年毎に行われる最大の祭典を「式



年遷宮」といい、神宮では最も重要な儀式で、約一三〇〇年の歴史があります。

木曾には、御用材を伐りだす「御杣山」があります。

「御杣始祭」は「御杣山」で伐採作業を始めるにあたり「御樋代木」を伐採するまつりです。「御樋代木」とはご神体をお納めする御器を造るための御材料で、一万本にもものぼる御用材のなかでも最初に伐りだされます。

皇大神宮（内宮）・豊

受大神宮（外宮）の御樋代木が並び立つ前で、安全を祈る祭典が執り行われ、「三ッ緒伐り」という木曾地方で古くから伝わる古作法で伐り倒します。

「式年遷宮」に関する諸祭



儀は三〇にも及び十二の主要な祭典では「御治定」（天皇陛下のお定め）を仰ぎます。平成二十五年には大御神が新殿へとお遷りになる最も重要な祭儀であります「遷御」が行われます。

参

「三月」

五日

(株)中越パッケージ

一二日

新潟県神社庁長 永井康雄

新潟県神社庁参事 栗田宗明

一七日

入間市・熊野神社

宮司 澤田利光 二七名

「四月」

六日

春の交通安全祈願祭

八日

氏子総出(清掃奉仕)

高瀬地区老人クラブ連合会

(金婚奉告祭)

一三日

立正佼成会(清掃奉仕)

一八日

富山県神道青年会

会長 平尾 賢 四名

拜

日

利賀村森林組合(安全祈願祭)

二〇名

「五月」

一三日

立正佼成会(清掃奉仕)

「六月」

八日

氏子総出(清掃奉仕)

二二日

北陸地区女子神職会(研修会)

三〇日

高瀬神社稲荷講商元繁盛祈願祭

「七月」

一日

川田工業(株)(安全祈願) 三〇名

建設業労働災害防止協会砺波分会

(安全祈願) 七〇名

誌

(社)富山県労働基準協会

(安全祈願) 八四名

タカハタ工業(株)(安全祈願) 八〇名

四日

神宮少宮司 高城治延

二見興玉神社宮司 片岡昭雄

熊野本宮大社宮司 九鬼家隆

砺波神社(北海道空知郡)

総代長 宮崎 正

五日

佐嘉神社宮司 草場昭司

賀茂御祖神社宮司 新木直人

九日

明治神宮崇敬会参拝旅行第一団

一三日

明治神宮崇敬会参拝旅行第二団

立正佼成会(清掃奉仕)

十八日

神社庁東西砺波支部(総会)

二〇日

池田合同(株)

二八日

富山県神社庁「庭燎のつどい」

抄

(敬称略)

(平成十七年三月〜平成十七年八月)

「八月」

一日

全国一の宮巡拝会 ダスティン・

キッド

七日

神社総代会東西砺波支部

「国家隆昌祈願祭」

二六日

埼玉県神社庁 神社総代会

飯能分会 四一名

二七日

長野県飯田市

さくら保育園

園長 近藤政彰 十一名

責任役員就任

藤井義雄氏

(南砺市高瀬)

平成十七年六月一日就任

「高瀬神社」開催

平成十七年七月十日(日)午前
十時より午後五時まで、夏のプ
ラ
イダルフェアを行いました。朝
から小雨がちらつく天候でしたが、
お昼頃には青空が広がり、約五
十名の方々にご来場頂きました。
各種御婚礼商品展示と共に、
引出物のクッキーや蒲鉾の試食
もあり、富山ならではの菓膳蒲
鉾の試食コーナーは人気を集め
ました。

午後一時三十分より神前式を
より深く理解していただく為の
セミナーを行い、模擬挙式も行
いました。

古くより縁結びの神様で知ら
れる大國様を祀る高瀬神社での
古式ゆかしい神前式は永遠の感
動を与えてくれます。



模擬披露宴ではハーブとフル
ートの生演奏で思いきり優雅な
ひととき
を満喫し
て頂きま
した。
また、
八月二十
日・二十

一日と「玉椿」プランの衣装展
示及び相談会を主とした「玉椿
フェア」を行いました。
衣装・美容・写真の打ち合わせ
が一度に神社で出来るというこ
とで、約十組のカップルのご来
場を頂き、当日二組ご成約いた
だきました。



会場には白無垢・紋付・色打
掛やドレ
スを展示
いたしました。
なによ
り皆様の
注目を集
めたのが、
「私だけの
ロイヤル
ウエディング《雅美》」と題し、展
示した十二単です。

人生の通過儀礼の中で最も華
やかで美しい装いの婚礼衣装の
極とも言われる十二単は本当に
艶やかでした。
「どんな衣装が似合うのか、ま
たどんなヘアスタイルが自分を
より輝かせてくれるのかわから

ない…」との不安を、プロのア
ドバイスを受けることで、納得
していただくことが出来ました。
美容打合せは、個別に行える
よう、事前予約を頂くことで、
ゆつたりと進めることが出来ま
した。

「髪はちょっと」とか「和装
は似合わない」と思い込んで
いた方も、新しい自分を発見さ
れたようで、大変喜んでいただ
けました。

連日の猛暑の中、フェアに御
来場頂いた方々に、心から御礼
申し上げます。



高瀬神社の

トワイライトウェディング

新祝言「たまゆら」

古式ゆかしく肅々と厳か
に執り行われる参進の儀。

篝火の揺らめきと時のほぜ
る音がなおいっそう瑞兆を
盛り上げ、幻想的な光景を
つくりだし、一步一步至砂
利を踏みしめる音に、心が
清らかに澄みわたる。

そんな幻想的な夕刻の祝言
と「たまゆら」と表してみ
ました。

詳細は社務所までお問い合わせ
下さい。

平成十八年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施致しております。本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、新年も輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願ひ奉納するものです。

一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内・参道に献灯いたします。

一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。

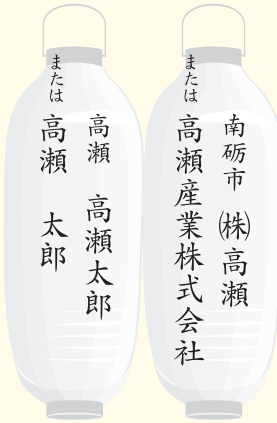
一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。

一、献灯初穂料は、一基につき 金壹萬円御志納願います。

一、申込締切 十一月十五日までにお申し込み下さい。

※記載芳名 例（約八文字）

一、会社



二、個人

ご結婚おめでとうございます

昨年十二月から本年六月まで御婚礼の御儀を執り行われた皆様です。
(挙式日、時間順)

(十二月)

二二日 佐々木健児様
和恵様

(三月)

五日 永山 忠之様
一美様
六日 高田 尚子様
進様
一三日 喜多 晴樹様
朋子様
肉田 和弘様
弘実様
高嶋 武司様
紀子様
田中 和一様
中村 義之様
荒尾 聡一様
酒井 浩徳様
忍様

(五月)

五日 神村 竜二様
綾乃様
一五日 横山 和史様
真紀様
二二日 須田 泰則様
由起様
木下 正樹様
かおる様
彩姫子様
倫孝様

(六月)

二日 川原 亮太様
千春様
四日 中谷栄太郎様
まり様
五日 鷲塚 貴紀様
かおる様
五日 石井 功一様
純恵様
五日 伊澤 真樹様
七々恵様
一三日 中川 善昭様
由美子様
一九日 三輪 裕治様
裕美様
二五日 村上 英敏様
博美様
二五日 織田 春美様
一誠様
二六日 大島 由里様
康宏様
志保様

(四月)

三日 杉原 賢磁様
雅代様
九日 安田 篤史様
美紀子様
一七日 村井 直也様
千春様
一三日 山室 京子様
雅也様

ご新郎ご新婦の末永いご多幸とご両家益々のご繁栄をお祈り申し上げます。
尚、当日の様子を当社社ホームページでご覧いただけます。

御案内

『七五三詣』

本年は次の通りです

○七歳(女子)

平成十一年生

○五歳(男子)

平成十三年生

○三歳(男女)

平成十五年生

十月一日より十一月末日まで、
毎日午前八時三〇分より午後四
時三〇分まで随時受け付けてお
ります。

祭典・結婚式等で御奉仕でき
ない時間帯もありますので、不
明の点は社務所までおたずね下
さい。



尚、十一月二十三日は新嘗祭
斎行のため午後一時より受け付
いたしません。

また、記念写真・貸衣装・着
付も承りますのでお問い合わせせ
さい。



『第三三回献茶式』

十月十日(祝)

午前十一時齋行

(お茶席・二席)

午前八時三〇分〜午後三時

(本席)

古儀茶道藪内流吉村知子社中

(副席)

古儀茶道藪内流福嶋慶子社中

(茶券)

一枚三千元(短冊・点心付)

『奉納』

○境内参道整備一式

砺波市庄川町

(株)川上建設

代表 川上 光泉 殿

平成十七年四月七日

『訃報』

責任役員 岩倉巧二氏

平成十七年四月二十六日ご逝去

平成十二年より、責任役員と
してご尽力賜りました。

謹んでお悔やみを申し上げます。

編集後記

昨年の台風二十三号による倒
木の被害で、境内森は閑散とし
ておりましたが、伊勢の神宮の
お計らいにより、檜苗木を拝戴し、
氏子各位の手により植樹がされ
元の境内に戻りつつあります。

また、「神様のご神威が昨年
より高まりましたね」という、
参拝者よりお言葉をいただきました。
苗木の成長とともに皆様
の末永い弥栄をお祈り申し上げ
ます。

発行日 平成十七年九月十三日

発行所 越中一宮高瀬神社

〒939-1811 富山県南砺市理休333-1

TEL 0763-62-0112 FAX 0763-62-3823

編集人 浦 泰宏

印刷所 牧印刷株式会社

MAKI PRINTING

私たちは、時代とともに刷新します。

牧印刷株式会社 〒939-1811 富山県南砺市理休333-1 TEL(0763)62-0112 FAX(0763)62-3823
MAKIデジタルサービス 〒939-1865 富山県南砺市城端4316-1 起業家支援センター TEL(0763)62-1195